

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第299回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

不動産学部に入って初めての夏を迎えた。調査で武蔵野市と三鷹市にまたがる井の頭恩賜公園を訪れた。JR吉祥寺駅南口から道なりに直進すると公園の入り口に

下りた左側に変わったデザインの公衆トイレを見つけた。不動産学部に入るまでは公園のトイレなどは何気なく通り過ぎていたが、小規模な建築物のトイレから不思議な魅力を感じた。

公衆トイレの魅力

まず、おしゃれなデザインである。全体的に白が基調で清潔感がある。また、女性用は赤色、男性用は青色の格子によって瞬時に判別できるデザインになっている。格子には木漏れ日が射し込み、木々が生い茂る公園で一層生き生きとしたデザインになっている。

洗練された文化を主張

銅板が変化して、緑青の味が増していく。変化が楽しみな公衆トイレだ。千葉県市原市の小湊鉄道飯給駅にある建築家藤本壮介氏設計のガラス張りの公衆トイレは、開放感にあふれる。人間の最も自然な行動を自然の中で行う、画期的なデザインだ。



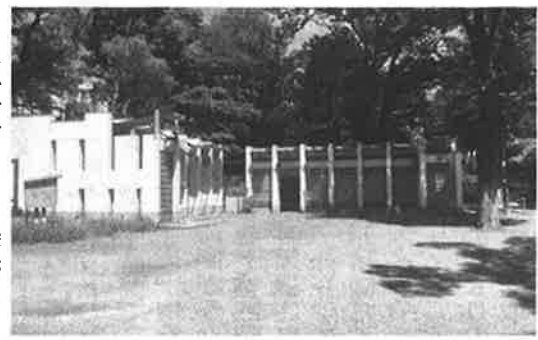
尾形 珠緒
不動産学部1年

井の頭公園にはほかに公衆トイレがあり、色も形もすべて違っている。調べるに国内だけでなく、世界にデザインに秀でた公衆トイレがある。例えば大阪城公園内にある建築家遠藤秀平氏設計の銅板を用いた公衆トイレは、時間が経てば経つほど

た。画一化されたデザインにするのではなく、トイレの個性を競わせている。一方、中国メディアは、「中国人旅行者はそれがトイレであるということが理解出来ない」と報じている。緑の多い公園であれば木材を多用した外観を採用するなど、日本の公衆トイレは造形だけでなく、建築材料を含めて、周辺環境に合わせてデザインされることが多い。建築物の形や建築材料を一体的に捉えて、日本人はそれが公衆トイレと感

【教員のコメント】
イベント時は仮設トイレが重宝だ。集中的な利用に対して機能、衛生などトイレの要素を確保する。公衆トイレは加えて、美観、清潔、快適、安心の要素が期待される。街中にこれらを備えた公衆トイレがあることは自慢できる日本の文化だ。

ることができると、公衆トイレは個性を持ちながらも洗練されている。言いかえると、それが公衆トイレと感



不思議な魅力を感じる小規模なトイレ

そ、デザインに配慮があり、清潔なトイレがある国や街は文化が洗練されているといえる。多くの外国人が日本に来る、東京2020でそう評価されたいと思う。